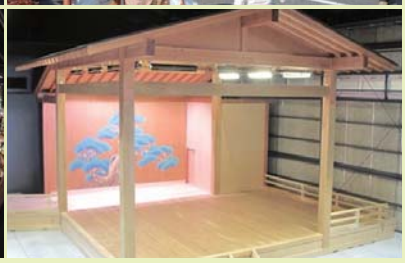
卸商業部会特集

先進卸売団地に学ぶ

静岡商工会議所・卸商業部会（部会長:神野一成・東海澱粉㈱相談役、部会員:1057社）では、平成27年10月16日～17日に日本を代表する高崎、仙台の卸売団地への視察会を実施しました。今回は、視察会に参加した部会員の報告を中心に掲載します。



時代の変化に対応し地域に密着した団地づくり

卸商業部会　部会長
東海澱粉㈱　相談役
神野一成 さん

私が卸商業部会長になって初めての先進卸売団地の視察を行いました。当社も静岡、石巻、塩釜、新潟、沼津、浜松、豊橋、岡山、高松、広島、福岡、熊本、鹿児島の卸売団地に営業所を構えておりますが、ほとんど活用できていないという現状下での視察でした。

昭和30年台後半から当時の通商産業省の後ろ盾で各地に中小企業育成のため、工業団地や商業流通団地が形成されました。当初はアクセス道路の整備等、手厚い保護を謳い文句にしていたものの、現実は地域の行政との整合性が取れず、埋め立ての地盤沈下により機能喪失に見舞われるなど、多くの団地は衰退していきました。

それに加えて流通業の機能が大きく変貌を遂げ、従来のように倉庫を持ち、自家配送を行う必要が薄れてきた点が一番の衰退要因だと思います。しかし、今回視察した二つの卸売団地は時代の変化に上手く対応し、新たな街づくりを行い、地域に密着した団地を作り上げています。

最初に訪問した高崎の卸売団地は要望をしてJRの駅も開通しており、団地の中に大学や老人看護施設、展示ホールがあるなど、一つの「まち」を作っていました。

次に訪問した仙台の卸売団地は地下鉄の駅が団地の中にあり、従来は業種別に仕切っていた構成を外して運営していました。当初からのメンバーは2割弱しかいないとのことで、常に新しい会員を増やすための魅力づくりを心懸け、活性化を図る努力をしていた点に感心しました。

また、団地祭りを行い、市民と団地企業がふれあうイベントを成功させていた点も称賛すべきことです。最近はインターネットを利用した取り組みも積極的に行っており、IT関連企業の誘致に成功しているなど、我々も大いに見習うべき点があると思いました。

2つの先進卸売団地を視察して団地という固定観念から離れて街づくりに重点を置き、市民とともに発展していくという考え方に共感を覚えました。